

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Ver. 10.5

製品安全データシート (MSDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	ハンドクリーナーワンタッチ
製品コード	3597
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南漣間町1-1
担当部門	技術開発部
担当者	保志光
電話番号	045-311-4701
FAX番号	045-316-6451
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	手・指の洗浄
作成日	2008年7月30日
改正日	2011年3月1日
整理番号	3597-03

2. 危険有害性の要約

GHS分類

GHS分類非該当

化粧品

3. 組成、成分情報

化学物質 ・ 混合物の区別
・ 混合物

成分名/化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
水	非公開	7732-18-5	—
ポリエチレン	非公開	非公開	非公開
ココベタイン	非公開	非公開	非公開
PG	非公開	非公開	非公開
ヤシ脂肪酸K	非公開	非公開	非公開
ケイ酸 (Al/MG)	非公開	非公開	非公開
ココミドDEA	非公開	非公開	非公開
キサンタンガム	非公開	非公開	非公開
メチルクロロイソチアソリノン	非公開	非公開	非公開
メチルイソチアソリノン	非公開	非公開	非公開
ヒアルロン酸Na	非公開	非公開	非公開
香料	非公開	非公開	非公開

PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有しない。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

労働安全衛生法

通知物質 : 法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

非該当 該当物質を指定量以上含有しない。

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Ver. 10.5

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。
- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・この製品自体は、燃焼しない。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Ver. 10.5

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・ 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・ 漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・ 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・ 作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・ 風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・ 着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・ こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

環境に対する注意事項

- ・ 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起ささないように注意する。

回収、中和

- ・ 少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・ 大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・ 回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・ 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・ 漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い上の注意

取扱い

技術的対策

- ・ 製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。

保管

適切な保管条件

- ・ 製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・ 容器を密栓すること。
- ・ 日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。

安全な容器包装材料

- ・ 特になし

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・ 蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「—」は、知見なし、あるいはデータなし

成分名/化学名	管理濃度	許容濃度
ポリエチレン	—	—
ココベタイン	—	—
PG	—	—
ヤシ脂肪酸K	—	—
コカミドDEA	—	—
キサンタンガム	—	—

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Ver. 10.5

保護具

呼吸器の保護具

- ・必要に応じて保護マスク等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観	:	クリーム色粘性液体
臭い	:	香料臭
pH	:	8.7
融点/凝固点	:	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	:	データなし
引火点	:	なし
自然発火温度(発火点)	:	なし
燃焼性	:	データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	:	データなし
蒸気圧	:	データなし
蒸気密度	:	データなし
蒸発速度	:	データなし
比重	:	0.99
溶解性	:	データなし
オクタノール/水分配係数	:	データなし
分解温度	:	データなし
その他のデータ	:	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・通常の取扱いにおいては安定である。

危険有害反応性の可能性

- ・特になし

避けるべき条件

- ・特になし

混触危険性物質

- ・特になし

危険有害な分解生成物

- ・特になし

その他

- ・特になし

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Var. 10.5

1.1. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ポリエチレン

《急性毒性》

経口:LD50>7850 mg/kg(ラット)
LD50>3000 mg/kg(ラット)
LD50>2500 mg/kg(マウス)
LD50>5000 mg/kg(マウス)

《皮膚腐食性/刺激性》

加熱溶融物の皮膚接触により、火傷を負う可能性がある。

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

加熱溶融物の眼接触により、火傷を負う可能性がある。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：吸入暴露により、刺激性を示す可能性がある。
皮膚感作性

《発がん性》

IARC 3 ヒトに対する発ガン性については分類できない

・ココバタイン

《急性毒性》

経口:LD50 >2000mg/kg(ラット/CSIO)

《皮膚腐食性/刺激性》

刺激性あり(ウサギ/OESIO)

《眼に対する重篤な損傷性/刺激性》

重篤な眼球損傷のリスクあり(ウサギ/CESIO)

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

皮膚感作性なし(モルモット/OECD 406)

《生殖細胞変異原性》

変異原性なし(Ames Test)

・PG

《急性毒性》

LD50(経口)ラット20,000mg/kg、マウス22,000mg/kg
LD50(経皮)ラット22,500mg/kg、マウス17,400mg/kg

《皮膚腐食性・刺激性》

ヒトへの影響

・ヒトがPGの蒸気に曝露した場合、眼への刺激作用はない。皮膚に直接接触した場合、開放系では刺激作用はないが、密閉系では刺激作用がみられた。

・10～30%溶液の2週間の反復塗布では刺激性を誘発するが、1～10%では刺激性はみられなかった。

動物実験

・モルモット、ウサギ及びミニブタでは皮膚刺激性はなかった。

《眼に対する重篤な損傷・刺激性》

動物実験

・直接点眼した場合、軽度の刺激作用がおる。50%溶液では眼刺激作用はなかった。

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

・20%水溶液では少数例(1.5%)に感作性の陽性が報告されたが、研究報告によっては発生率に差があり、1%水溶液でも陽性反応を示すヒトもいる。

《生殖細胞変異原性》

Ames試験：陰性

染色体異常試験(ヒトリンパ球)：陰性(ILGLD Release3.1(2000.2))

《発がん性》：日本産業衛生学会、ACGIH、IARC、NTPのいずれにも記載なし。

ラット及びイスの2年間の長期混餌投与試験で腫瘍形成性はみられなかった。

ラット及びマウスへの反復皮膚塗布試験でも腫瘍形成性はみられなかった。

《生殖毒性》：マウス継代試験で5%のPGを給水投与しても親にも次世代の繁殖および生殖に影響はなかった。

・ココミドDEA

《急性毒性》

：経口、マウス、LD50:>10g/kg

皮膚腐食性・刺激性

：皮膚刺激：ヒト、5%、軽度

眼に対する重篤な損傷・刺激性

：目刺激：ウサギ、30%、無作用

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Ver. 10.5

《呼吸器感作性》又は《皮膚感作性》：ジエタノールアミンに関する《皮膚感作性》で、モルモットの試験（そのうちの1の試験はOECD試験ガイドライン406に基づく試験）において、《皮膚感作性》が認められなかった（ACGIH(2001), IUCILD(2000)）こと、及びヒトにおける2つのパッチテストにおいて皮膚感作性が認められなかったと記載されている。

《特定標的臓器》・全身毒性・単回暴露：ジエタノールアミンに関するラットの経口投与試験で、区分1のガイダンス値範囲内の投与量で麻酔作用（鎮痛作用、運動失調）及び肝障害（重量増加、血清トランスアミナーゼ及びその他の肝臓酵素の増加、湿潤腫脹と空胞変性、小胞体とミトコンドリアの損傷）が見られたと記載（ACGIH(2001)）されている。－以上の情報に基づき、区分1（肝臓）、区分3（麻酔作用）とした。

《特定標的臓器毒性》反復暴露：ジエタノールアミンに関するラットの試験で区分2のガイダンス値範囲内の用量で肝臓及び腎臓の重量増加と腎症が記載（PATTY(5th, 2001), ACGIH(2001)）されている。また、赤血球数、ヘモグロビン濃度、ヘマトクリット値の減少などの貧血を示すデータ及び脳、脊髄の脱髄が記載（ACGIH(2001)）されている。ヒトでは、肝臓及び腎臓に影響を及ぼすことが記載（IARC/JNC(2002)）されている。－以上の情報に基づき、区分2（肝臓、腎臓、中枢神経系）とした。

・ キサンタンガム

《急性毒性》

経口：LD50 5,000mg/kg 以上（ラット、経口）

《皮膚腐食性/刺激性》

皮膚刺激性認められない（ウサギ）

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

目粘反刺激性認められない（ウサギ）

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：

皮膚感作性繰り返し皮膚に曝露したが、皮膚感作性は認められない（モルモット）

《生殖毒性》

500mg/kg/day（ラット）で3世代で変化が認められない。

・ メチルクロロイソシアゾリノン・メチルイソシアゾリノン

《急性毒性》

経口：LD50 ラット メス 2,630 mg/kg

LD50 ラット オス 3,350 mg/kg

経皮：LD50 ウサギ > 5,000 mg/kg

吸入（粉じん・ミスト）：LC50 ラット 4 h 0.33 mg/l 活性成分

《皮膚腐食性/刺激性》

ウサギ 腐食性

《眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性》

ウサギ 腐食性

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：ギニアビッグ 感作を起こす。

皮膚感作性ギニアビッグ 感作を起こす。

《発がん性》

マウスの皮膚試験及びラットの経口試験のいずれにおいても非発がん性。活性成分

《生殖細胞変異原性》

変異原性ではない 活性成分

《生殖毒性》

この製品は、生殖に関する危険有害性物質ではない。活性成分

《特定標的臓器毒性（単回暴露）》

吸入：蒸気ないしミストを吸入すると、以下を起こす可能性がある：鼻、喉、肺への刺激

摂取：飲み込むと有害なことがある。

皮膚：物質は以下を起こすことがある：皮膚の腐食

火傷

皮膚接触により、過敏な人では感作が起こることがある。

眼：物質は以下を起こすことがある：眼の腐食 永久的な眼の障害を起こすことがある。

《特定標的臓器毒性（反復暴露）》

データなし

《吸引性呼吸器有害性》

データなし

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Ver. 10.5

12. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

- PG

・環境影響・生態毒性

・魚毒性：データなし

・その他：漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。

・残留性／分解性：易分解性

BOD 108g/g、COD(Cr)1.68g/g、COD(Mn)0.72g/g

・生体蓄積性：log Pow -0.92~-1.32

BCFは1以下である。

・ヤシ脂肪酸K

生態影響

魚毒性：ヒメダカ、TLm48:<10ppm

残留性／分解性：生分解率:>98.7%

BOD:105ppm(100ppmaq.)

COD:61ppm(100ppmaq.)

・キサントタンガム

《水生環境有害性》(急性)

魚毒性：LC50 490mg/l (ニジマス、96 時間) LC50 980mg/l (ミジンコ、48 時間)

酸素要求量：BOD5 約200mgO2/g

・メチルクロロイソシアゾリノン

《水生環境有害性》(急性)

魚類に対する急性毒性

LC50 *Oncorhynchus mykiss* (ニジマス) 96 h OECDテストガイドライン203あるいは同等のもの 0.19 mg/l

活性成分

LC50 *Lepomis macrochirus* (ブルーギル サンフィッシュ) 96 h OECDテストガイドライン203あるいは同等のもの 0.28 mg/l 活性成分

無脊椎動物に対する急性毒性

EC50 *Daphnia magna* 48 h FIFRA 77-2

0.16 mg/l 活性成分

EC50 *Daphnia magna* (オオミジンコ) 48 h OECDテストガイドライン202あるいは同等のもの 0.126 mg/l

藻類に対する急性毒性

EC50 *Pseudokirchneriella subcapitata* (緑藻) 72 h OECD 試験ガイドライン 201

0.003 mg/l 活性成分

ErC50 藻類 (*Selenastrum capricornutum*) 72 h OECD 試験ガイドライン 201

0.003 mg/l 活性成分

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Ver. 10.5

13. 廃棄上の注意

- ・内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

14. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

該当しない

国連番号

該当しない

容器等級

該当しない

国内規制：

容器イエローラベル

該当しない

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・荷くずれ防止を確実に行う。
- ・該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・直射日光を避ける。
- ・水濡れ厳禁。
- ・積積み厳禁。
- ・夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

対象外

消防法：（ ）内は、指定数量

非危険物(消防法上の非危険物)

不燃物である

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)：

非該当(該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法：

表示対象物質を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)：

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物)：

非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の促進の改善の促進に関する法 (PRTR法)：

非該当 該当物質は含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

整理番号	ハンドクリーナーワンタッチ	作成日	2008年7月30日
3597-03	横浜油脂工業株式会社	改定日	2011年3月1日

Ver. 10.5

16. その他の情報（参考文献等）

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

化学物質等安全データシート（MSDS）-第1部：内容及び項目の順序 JIS Z7250:2005

GHS分類結果データベース（独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ）

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA（日本オートケミカル工業会）編集：化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版（日本オートケミカル工業会）

危険物船舶運送及び貯蔵規則（海文堂）

※注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。